

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第34号

平成30年 3月 5日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

日本の伝統楽器・伝統音楽のよさを体験 国際社会の一員としての日本人の自覚に必要な資質

2月27日(火)、翌28日(水)の2日間、生田流宮城社桐音会から後藤札子さん、星美穂さん、金澤美穂子さんのお三方にゲスト・ティーチャーとしてお見えいただき、1年生の音楽「和楽器」の授業を担当していただきました。写真をご覧くださいとわかるように、6名は「三絃」、その他の生徒は「箏(そう)」の演奏を体験することで我が国の伝統音楽のよさを味わい、それを継承している地域の方とふれあい日本の音楽文化を尊重する態度が培われたのではないかと考えています。



私は、1日目の最初の時間と2日目の最後の時間の2回、授業を参観しました。そして、次の3つの点で驚きと感動を味わいました。



一つめは、たった1時間で、全員で「さくら さくら」を演奏できるレベルになっていたことです。先生からも「中学生は、質がよい」とのお褒めの言葉をいただきました。二つめは、最後に3人の先生が披露してくれた演奏「祭りの太鼓」です。私も日本の伝統楽器のよさを感得できたように感じました。そして三つめは、後藤先生がお話くださった宮城道雄(1894—1956)さんの生涯です。幼くして光を失い、箏の道へ。困難に屈することなく厳しい修行に打ち込む姿勢、そして名曲「春の海」が誕生したエピソードは、一幅の絵となって私の脳裏に浮かびました。きっと生徒たちの心にも響いたのではないかと思います。

大学の教養課程で「源氏物語」を学んだ時、大学の先生がこうおっしゃいました。

「日本の外交官が、欧米の外交官と交流していた時、話題がシェイクスピアから『源氏物語』に移った。日本の外交官はシェイクスピアについては語る事ができたのに、『源氏物語』については他国の人に尋ねられても答えられなかった。その外交官は相手にされなくなった。国際人というのは、相手の国の文化を知る以上に自国の文化を深く理解し、その上で互いの文化を尊重できる人なのではなからうか。」

国際化に対応できる教育の在り方が求められています。今、この言葉のような考え方に立って、それが進められています。

ひと味違うぞ！中学生

清掃の時間にこんな生徒を見かけました。それは、1年4組の教室清掃の女子生徒です。

清掃時間も後半に入り、教室の前半分に寄せていた生徒用の机を元に戻します。机を持ち上げて運ぶ姿があまりにも颯爽としていたので、自然に目に止まりました。そのまま見ていると、背筋をしゃんと伸ばして、机を腰の高さまで水平に持ち上げ、小走りに近いスピードで運んでいることがわかりました。しかも、二つめも、三つめも同じように運んでいました。

その生徒は、きっと自分が他の人よりもてきぱきと机を運んでいるなどとは意識していないでしょう。そこがまた、さわやかでいいのです。



3年生の功績を讃えて

2月23日(金)の「3年生を送る会」で生徒会功労賞と体育文化後援会特別賞の表彰を行いました。申し訳ありませんが、表彰理由となった実績は省略して氏名のみ紹介します。(○に数字は学級です。)

平成29年度生徒会功労賞

大森 竜馬①	切石 愛結①
草野 八雲①	杉原 愛①
高橋 英将①	名越 美帆①
並木 卓士①	柏原 梨花②
小林 ゆあ②	鈴木 智也②
鈴木 礼愛②	関根 愛奈②
高橋 玲那②	星 智徳②
箭内 俊祐②	岡部 耀虹③
嘉齊日那乃③	風岡 想佑③
菊地 麻耶③	鈴木 一徳③
古川 郁③	小野ひなた④
熊田 真子④	小森 大樹④
佐久間 奏④	水野 大翼④
佐藤 璃音⑤	柴原 望⑤
半澤 冬聖⑤	渡邊うらら⑤
井上 円花⑥	大河原 涼⑥
奥山 泰牙⑥	山口 夢翔⑥
吉田さくら⑥	阿部慎太郎⑦
飯塚 光琉⑦	加藤 万尋⑦
菅原 藍⑦	武藤 妃花⑦



平成29年度体育文化後援会特別賞

安藤 達也①	安藤 遙斗①	市村 優翔①
岩瀬なずな①	大森 竜馬①	切石 愛結①
草野 八雲①	関根 優衣①	大樂 琴美①
高橋 英将①	名越 美帆①	並木 卓士①
林 佑真①	吉田 充希②	有賀 美月②
薄井 千尋②	大山 雄己②	柏原 梨花②
菅野 未空②	十文字祐真②	鈴木 礼愛②
高橋 玲那②	常松 善②	長沼 光穂②
西間木彩乃②	菱川 賢生②	星 智徳②
宮尾 航平②	森 駿介②	柳沼 洋介②
若井 奈々②	有我 樹③	五十嵐 善③
鶴沼姫羅々③	岡部 耀虹③	嘉齊日那乃③
菊地 麻耶③	小松 亮③	鈴木 一徳③
内藤 颯③	長尾凜太郎③	根本 悠馬③
野村 希愛③	古川 郁③	星 綾音③
柳沼 響希③	安田 愛③	結城 美友③
渡邊 碧③	阿部 光希④	有我 友香④
薄井 拓真④	小野ひなた④	小林 愛④
小森 大樹④	佐久間 奏④	鈴木 千尋④
円谷 琴美④	新田 奈々④	服部 龍太④
人見 大輔④	水野 大翼④	溝井 優人④
室井 那歩④	吉田 翔④	米倉 妙香④
江藤 大晟⑤	大塚 澄音⑤	岡部 翔太⑤
熊田 幸乃⑤	榊枝 龍希⑤	佐藤 璃音⑤

柴原 望⑤	鈴木 将輝⑤	鈴木蓮太郎⑤	関口菜々子⑤	添田 旺彦⑤
半澤 冬聖⑤	星 ひかり⑤	星 楓花⑤	眞壁 李奈⑤	水野 由惟⑤
宮田 雄太⑤	村田 果蓮⑤	矢部咲里菜⑤	吉原 桃華⑤	渡邊うらら⑤
猪越 諒⑥	遠藤 璃空⑥	大河原 涼⑥	金沢 俊紀⑥	金澤 玲奈⑥
近内 美咲⑥	西條 陸斗⑥	齊藤 なお⑥	相樂 拓真⑥	佐藤 愛華⑥
佐藤 真湖⑥	鈴木 彪⑥	中村 匠⑥	森藤 竜司⑥	矢吹 翔⑥
矢吹 美空⑥	山口 夢翔⑥	阿部慎太郎⑦	板谷 尊⑦	岩崎 翔流⑦
加藤 万尋⑦	菊地 崇之⑦	久納 麻由⑦	佐藤 悠斗⑦	佐藤 妃菜⑦
菅原 藍⑦	鈴木 陽⑦	鈴木 倫久⑦	関根 藍斗⑦	橋本 尚輝⑦
緑川 琴音⑦	武藤 妃花⑦	和智 愛斗⑦	藁谷 優真⑦	



ことばの力⑪「鳥は飛び方を／動物は走り方を変えられない。」

鳥は飛び方を／動物は走り方を変えられない。／しかし、みなさんは、明日からでも自分の生き方／つまり生活の習慣を変えることができます。

昨年105歳で亡くなった医師 日野原重明氏の言葉です。現役最高齢の医師としてご存じの方も多いでしょう。また、すでに昭和50年代に、それまで「成人病」と呼ばれていた病名を「(生活)習慣病」と改名するよう提唱した医師として知られています。

日野原氏が、自らの「宝物」と称する習慣とは、次の15項目です。



- | | | | |
|----|--|----|-----------------|
| 1 | 愛することを心の習慣にする。 | 2 | 「よくなろう」と思う心を持つ。 |
| 3 | 新しいことにチャレンジする。 | 4 | 集中力を鍛える。 |
| 5 | 目標となる人に学ぶ。 | 6 | 人の気持ちを感じる。 |
| 7 | 出会いを大切にする。 | 8 | 腹八分目より少なく食べる。 |
| 9 | 食事に神経質になりすぎない。 | 10 | なるべく歩く。 |
| 11 | 大勢でスポーツを楽しむ。 | 12 | 楽しみを見いだす。 |
| 13 | ストレスを調整する。 | 14 | 責任を自分の中に求める。 |
| 15 | やみくもに習慣にとらわれない。(「生きるのが楽しくなる15の習慣」(講談社α文庫)より) | | |

この15項目を見ると、身体と心の健康は密接なのだと考えさせられます。

この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。